

中学校の社会科の先生方へ



今年の高校入試はこんな問題でした！

合格者の社会の平均点は、55.7点

★正答率^(※)が高かったのは、各分野とも基礎的・基本的な知識を問う問題です。学習の過程をとおして知識及び技能の定着が図られています！



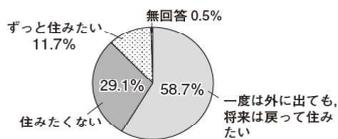
特徴的な問題を見てみましょう！

4 分野融合

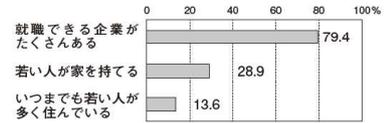
- 2 貴子さんたちのクラスでは、資料2をもとに、日本や地域の人口減少をおさえる対策について話し合いを行いました。次の(1)、(2)の問いに答えなさい。
- (2) 後の「ウ」には、AかBのどちらかを、「エ」、「オ」には、その立場から適切な内容を書きなさい。

資料A (社会増の立場)

<現在住んでいる地域に将来も住みたい若者の割合>



<若者が住みよい町になるための条件>

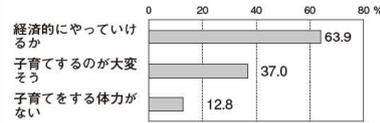


資料B (自然増の立場)

<年齢階級別の非正規雇用(労働)者の割合(%)>

	1990年	2000年	2017年
15～24歳	20.5	40.5	47.7
25～34歳	11.7	15.8	25.9
35～44歳	20.9	23.1	28.6

<子育てで不安に思っていること>



(「平成29年労働力調査」、「平成27年結婚・家族形成に関する意識調査報告書」他より作成)

私は資料「ウ」を選びました。この資料から、私が考えた対策は、「エ」です。そのように考えた理由は、資料から、「オ」です。



<標準解答>

2 (2)

エ

(Aの例)
地域における若者の安定した雇用の確保すること

(Bの例)
非正規雇用(労働)者の正社員化の実現を進めること

オ

(Aの例)
地域からの若者の転出がおさえられ、定住につながると思うから

(Bの例)
経済的基盤が安定し、結婚や出産の希望が実現すると思うから

<ねらい>

4の2(2)は、選択した資料の内容を読み取った上で、人口減少をおさえる対策と、そのように考えた根拠を説明する問題でした。

<分析>

正答率は、2(2)のエが61.1%、オが53.8%でした。課題としては、複数の資料を関係付けた上で、自分の意見を整理し、社会科の知識や授業で学んだことを活用して表現する力をいかに身に付けるかなどが考えられます。

<提案>

授業では、各分野における基礎的・基本的な知識を活用する力を育成するため、現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を選択して多面的に考察し、適切に表現する能力や態度を育成していくなどの工夫が必要です。



「分かる！・できる！」まで教えよう！(授業改善のkeyword)
各問いの出題内容・ねらい及び正答率は裏面をご覧ください！
詳しい分析は、報告書や県教育研修センターのHPをご覧ください！

(※)正答率については、合格者4,678人の中から、無作為に抽出した630人(13.5%)分のデータです。